

S.G. Report

No.9

『化血研訪問』

- 日時： 平成26年11月18日（火）14：00～16：30
- 参加者： SGコース生徒（46名）および職員（井上、鶴濱、宮家）
- 訪問先： 化学及血清療法研究所
- 目的： 地域に根ざし、グローバルな視点を持ちながら環境に関する取組を積極的に行っている企業を訪問し、その取組状況を見学し、環境に関する質疑等を行うことを通して、SGコースの生徒たちの環境に関する意識を高める



【研修内容】

研修内容	
14：00～14：50	スライドによる会社概要説明 《地域》 <ul style="list-style-type: none">・熊本から世界へ（熊本から発信する only one）・海外との連携・環境クイズ 熊本地域（14市町内）に水がめがある 2013年 地下水保全の取組で国連表彰を受賞 《環境》 <ul style="list-style-type: none">・化血研のエコマネジメントシステム・ISO14401 認証(2001年より継続、現在までに4回更新)・行動指針（Plan Do Check Action）・環境負担低減・製造用水 478,000トン・0.2%→埋立て(その他はリサイクル)・地下水涵養（化血研の森林）・地下水保全の取組 汚水防止 井戸8本：定期的に地下水位と揚水量をチェックしている ⇒地域と環境に根ざした取組を行っている
15：00～16：00	施設見学①地下水くみ上げ・排水処理 ②地下水涵養事業 ③インフルエンザ・ワクチン設備
16：00～16：30	質疑応答・まとめ 謝辞

【生徒感想】

- ・私は今回化血研を訪問して、たくさんのことを知ることができました。まず、きれいで熊本の誇りである熊本の水の大切さを感じました。なぜならこの研修を受けて、改めて熊本の水の大切さを感じたからです。私は、今回の研修で初めて熊本の地下水の保全への取組が2013年に国際連合から表彰されたということを知りました。～中略～ また化血研は水保全以外にも他の企業と協力して植林をしたり、廃棄物削減をしたり様々な活動をしていました。私は将来このような自然を守るところで働きたいと思っています。これから今まで以上に私も節水したりゴミを減らしたり地球のためにできる事をしたしたいと思います。(Y.I.)
- ・化血研についての情報が少なかったので、中にトレーニングルームみたいなものがあったり、ワクチンを作るための卵を専用の養鶏場から取引しているという話を聞いたりしたときは、とても新鮮でした。その中で僕が一番印象に残っていたのは、ウィルスと細菌の違いは大きさではない、ということでした。イメージだとウィルスの方が小さく細菌は大きいと思っていました。しかし、ウィルスと細菌の違いは生きた細胞の中で増えるかどうかでした。～中略～排水にまで気を遣う化血研の取組は、環境問題を議論していくSGコースの本質だと思うので、今回の化血研訪問はとても有意義なものだと感じました。(T.Y.)
- ・今回化血研を訪問し、環境を守るためには色々な努力が必要で、それを続けていくことが大切だと分かりました。私の母は以前化血研で働いていたのですが「ワクチンを作る場所」とだけ聞かされていたので、正直SGコースで化血研訪問をすると聞いたとき、なぜ化血研なのかよく分かりませんでした。しかし、実際見学してみると水の節水にとっても力を入れておられて驚きました。～中略～ また化血研で出たゴミは80%もリサイクルされているそうです。80%もリサイクルするにはすごい量の分別が必要で面倒で大変であると思います。しかし環境のために少しでも役立ちたいという気持ちと、それを実行するにはどうすればいいかと考える力、そして続けていくことが大切なのだ学びました。私たちはこんなに大きなことはできないかもしれませんが、環境に興味を持ち、守っていくために考えられることは出来ると思います。そして小さなことからでも実践していくことができるよう、これから頑張って活動していこうと思います。(A.T.)
- ・私が化血研訪問の中でワクチンの製造に必要なのは多くの水であることと、化血研ではワクチンを製造するだけではなく、環境保全への取組もされているということを知りました。豊かな地下水を持つ熊本県ではワクチンの製造に必要な水を補うことが出来ます。水は私たちが飲むためだけではなく、命を助ける薬となることを知り、改めて「水」というものの大切さを考え、豊かな地下水があるという恵まれた環境を守るべきだと考えました。また、化血研で行われているPLAN-DO-CHECK-ACTIONという環境マネジメントシステムを利用した環境保全への取組についても学びました。原水を一次利用、二次利用し、リサイクルして再利用することで結果的に水の排出量と再資源化量があまり変わらない、つまり水を最大限に活用できるということが可能になります。また、農業用水を湛水することで、地下からくみ上げ利用する水の量より多くの水を地下に戻していたり、汚染防止のための特別施設の管理や訓練をしたり、19000本もの広葉樹を植林するなど本当に環境のことを考えた取り組みをされていると感じました。人を健康にするものを環境に害のない形で作ることがいかに大変であり、素晴らしいことなのかということも知りました。水を出しっぱなしにしないことやゴミを拾うボランティアに参加するといった小さなことが環境をよりよくする一歩になると思います。普段なかなか見学できない企業への研修では、もう一度私たちが考えなければならぬ問題が見つかり、これからのSGの取組への関心を強く持つことが出来ました。(Y.H.)